

参加費 無料 お子様連れ もちろんOKです

参加ご希望の方は事務所までご連絡ください。担当：中西・鹿嶋（かしま）

tel 052-485-5208 fax 03-6893-5801 e-mail info@alle-net.com

今後は月に一回の交流会を予定しています。健康増進室をお借りできる日に交流会を実施します。10月の予定は、9月1日に会場の予約をしたうえで決定をします。お問い合わせください。アレルギー児を持つお母さんお父さんのご参加をお待ちしています。

事務局長 中西里映子

2. 「アレルギー児の親の交流会」 開催のお知らせ

【 アレルギー児の親の交流会 】を開催します！！

食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、ぜん息など、アレルギー疾患を持っているお子さんのお母さん、お父さん、おばあちゃん、おじいちゃん・・・、アレルギーかな？と、お悩みのある方・・・、私たちと一緒に話をしませんか？

食事づくり、ダニ・ハウスダスト対策、外食の情報、園や小学校のこと・・・などなど、アレルギーっ子を育てるには悩みが多いですね。先輩ママやアレルギー支援ネットワークのスタッフがアドバイザーとして参加します。どなたでも参加できます。遠慮なくお子さん連れで、またお友達を誘ってお越しください。

3. 最新『アレルギー情報』 食物アレルギーの薬物療法

食物アレルギーの薬物療法

薬を飲んでいると、食物アレルギーの症状はどのくらい予防できますか？

---という疑問に、正確に答えられるだけの情報は、実はありません。

最近の傾向として、アレルギー症状の起きる食物でもできる限り完全除去を行わず、症状が出ないところまでは食べていこうという指導が増えてきました。その中には、抗ヒスタミン薬などを飲んで軽い症状を予防しながら、摂取を進めていこうとする場合もあります。

そこまでの方が、食物アレルギーが早く治るのかどうか、という結論は、現時点では出ていません。しかもそれ以前に、薬を飲むとどの程度食物アレルギーの誘発症状が抑制できるのか、という素朴な疑問に答えるデータがありません。

そこで私たちは、愛知県下のいくつかの病院で共同して、卵や牛乳の経口負荷試験で症状が確認されて完全除去を続ける方を対象に、約2ヶ月間抗ヒスタミン薬（ケトチフェン）又はTh2サイトカイン抑制薬（スプラタスト）を飲んでいただき、薬を飲んだ状態で再度経口負荷試験を行って反応性の違いを確認する臨床研究を開始しました。

もし、薬を飲み続けることで安全に食べられる量が増えることがわかれば、それをしばらく継続して、耐性獲得が進んだかどうか再確認することもできます。

研究に参加している施設や、参加できる条件は決まっています。参加できる年齢は3歳以上で、その他にもいくつかの条件があります。

こうした臨床研究に関心のある方は、支援ネット事務局までメールでお問い合わせ下さい。

伊藤浩明（いとうこうめい）
あいち小児保健医療総合センター アレルギー科

4. おいしいレシピ 《手づくりの【つけつゆ】》 青木 好子

アレルギー支援ネットワークの理事であり、アレルギー大学の講師でもある青木好子先生のレシピを紹介します。今月は「手づくりの【つけつゆ】」です。
冷麦やそうめんの【つけつゆ】、面倒だなと思っても作ってみるととっても簡単でおいしいですよ☆

5. 2009年アレルギー大学中級講座を受講して

2009年アレルギー大学中級講座を受講して

「アレルギーっ子の会ぼかぼか」（三重県津市）の森真貴です。

この5、6月に毎週アレルギー大学の中級講座を受講しましたので、その感想を書きます。

・No.10 医学Ⅱ「教育・保育現場でのアレルギー対策」

お医者さんからのとても解かり易い講座でした。園、学校などの関係者をハッキリと対象にした講座時間で、(母親の立場から思いつかない)現場の素朴な疑問や戸惑いがわかって今後の参考になりました。講義内容に最新の食物アレルギー知識も盛り込んであり勉強になりました。

食物アレルギー児受け入れ側の、どこまで保護者の要求を聞くべきか?食物アレルギー児にどこまで対応することが可能か?という難問に、医師の立場からの基準を明確に話されたので(絶対ではないが)、現場関係者は大変助かったのではないかと思います。

・No.11 栄養と献立Ⅱ「集団給食の目的と献立、すすめ方」

食の大切さを世の中が再認識し、文部科学省や厚生労働省が集団給食を教育の一環として見直し、それとともに食物アレルギー児への対応も求めていることをまず話して下さいました。給食対応は、調理員個人ではなく組織として動くことで責任の持てる範囲がはっきりし、事故への対処も含め子供の為になることを話されました。献立の変更(食物アレルギー対応)の具体例が多く資料に載せてあり、専門職の方には参考になる部分が多かったのではないかと思います。

・No.12, 13 発達とアレルギーⅡ「アレルギー児の生きる力を育む」

『食』、ここに人間が成長していく全て(知・徳・体)の基本があることを知りました。食物アレルギー児の母であれば、食がいかにかに子どもの心身の成長にとって大きな割合を占めるか知っていますが、ここまでとは・・・もっと早く知りたかったです。講義内容はある

意味平凡なことかもしれません。でも、その平凡なことが、こんなにも大切だったのだ！と思いました。(高校生の子どもを持つ私は将来の孫のために聞きました。) 幼児期の楽しい食経験はその子の一生を支えることになるそうです。

・No.14, 15 実習I「卵・乳・小麦・その他に対応した給食I」

小麦抜き対応は、給食関係者にとって非常にハードルが高いと思います。小麦を使っていない食材を実際に使って調理することは、一番してみたいことだったろうし、一番現場に役立つことだと思います。今回はホワイトソルガム使用品で代替していましたが、(小麦がアレルギーの子でホワイトソルガムにも反応する子は多いように思うので)、米粉の代替品も使ってほしかったなと思いました。

どの品もシンプルな材料ながらおいしくて、「手作りって本当においしい」と再認識しました。又毎度のことながら、皆さんの手際の良さに感心しました。

この場に参加されている現場の方々の自己紹介は、いつも暖かく涙してしまいます。私は食物アレルギーの子どもたちが食物アレルギー対応給食に本当に喜んでいること、感謝していることを話します。調理員さん方は、食物アレルギー児保護者の感謝の言葉や思いを聞くこと、食物アレルギー児の笑顔をみることが何よりの励みだと話されます。

今回ある調理員さんが、「いつも食物アレルギー児の保護者に、食物アレルギー対応給食にお手間をかけてもらいすみません、といわれるけど、私らは楽しんでしている部分もありますよ。今日は卵抜きやけどこんなんできた！やったー！見てみて！みたいな感じかな」とプロの心意気を話されました。こんな言葉をきかせてもらい、また、涙でした。

最後に・・・アレルギー大学に参加しないのは、もったいない。

「アレルギー大学&よい子育て大学」と名前を変えてもよいと思います。それくらい、素晴らしい講座がそろっています。子どもが食物アレルギーを持っていたからこの講座に巡り会えましたが、子どもの真に健やかな成長を願う、子どもを持つすべての親に薦めたいです。

6. メールマガジンについてのお問合せなど

★メールアドレスの変更や、このメールマガジンに関するお問合せは、asn-mailmagazine@alle-net.com (担当：園木)までお願いします。また、今後、アレルギー支援ネットワークのメールマガジンを希望されない方は、お手数ですが、件名に「配信停止希望」と書いてメールをお送りください。(メールマガジン配信準備の都合上、配信停止手続きと行き違いでお届けする場合がございますが、ご了承ください。)

★メルマガの転載について

無断転載・転送を禁じます。アレルギーの会などが活動で使用する場合は、事務局(担当：園木)asn-mailmagazine@alle-net.comまでお尋ねください。なおメールマガジンのメールアドレスには、返信はできません。ご注意ください。

★会員のみなさまからのご要望、お便り、アレルギーについての疑問などお寄せください。

NPO 法人アレルギー支援ネットワーク

◇事務局◇ 453-0021 愛知県名古屋市中村区松原町 1-24 COMBi 本陣 S103

▽TEL : 052-485-5208

▽E-mail : info@alle-net.com

☆◆-----◆☆